

<学校教育目標>学ぶ楽しさ 遊ぶ楽しさ つながる楽しさ

<本校の目指す子ども像> 自分大好き・友だち大好き・学校大好き

◆主体的に学習に取り組み、よく考える子◆認め合い、励まし合って仲良くする子◆運動に親しみ、健康で安全な生活を営む子

学校だより

8月号

令和6年(2024年)8月26日

豊中市立豊島小学校

2学期が始まります



子どもたちが学校に戻ってきました。今年も暑い夏でしたが、有意義な時間を過ごすことができましたでしょうか。

暑さもさることながら、地震や台風などが日本を襲い、お盆の予定を変更されたご家庭もあったかもしれません。何事もなく過ごすことが、日常の普通の生活がどれほど大切であるのか、思い知るようになりました。

今年は、オリンピック競技会パリ大会があり、17日間(開会前を合わせると19日間)の感動的な競技をたくさん見ることができました。「広く開かれた大会」をスローガンに、様々な国の選手や市民も参加し、祝祭ムードが高かったようです。しかし、SNSで選手への誹謗中傷問題が大きく取り上げられました。私たち自身が、SNSの使い方によっては、人を傷つける恐れがあるという認識をし、使用していかなければなりません。夏休みの研修でSNSについて学んだことを後ほどお伝えします。

さて、豊島小学校を卒業した人がオリンピックに出場していたことは、聞いておられるかもしれません。8月1日15時ごろにスタートした競歩の濱西選手です。この日の豊中市は猛暑でしたが、地域の野球部パワーズの保護者の皆さんが中心となり、本校の体育館で有志が集まり応援をしました。音楽クラブの子どもたちの演奏もあり、たくさんの地域の人や子どもたちが観戦しました。パリのエッフェル塔をバックに1時間20分の力走でした。濱西選手は、小学校時代はパワーズに所属し、中学校では陸上部に入部。それから高校で競歩の魅力にはまったそうです。今は、関東の方で働きながら日々の練習に励んでいるそうです。体力が必要な立ち仕事ですが、仕事のストレスは競技で、競技のストレスは仕事で解消されているそうです。何事も、努力や工夫、周りの理解が重要なのでしょうか。豊島小の子どもたちも、様々なスポーツに親しみ、1つの競技にこだわらずに取り組んでみることも重要です。1つのことを突き詰めて頑張ることも大切ですが、小学校のうちは、体育の時間を含めたくさんの競技を体験し、豊かな生涯スポーツとして自分に合ったスポーツを見つけたいと願っています。



濱西選手。お疲れ様でした。次のオリンピックに向けても頑張ってください。



夏休み気分を吹き飛ばしましょう

1年で1番長い学期が2学期です。運動会や学習発表会など大きな行事がたくさんあります。子どもたち

たちは、これらの行事を通して、友だちと協力することの大切さや自分で考えて行動することなど、様々な視点から学び、大きく成長するきっかけとなります。8月の短縮期間中に規則正しい生活に戻れるようにご協力ください。暑い中で



の登校になります。帽子をかぶり熱中症に注意をしてください。休み時間に運動場に出る際には、赤白帽や帽子がないと運動場に出られないことがあります。子どもたちの体を守るためにも、帽子の着用にご協力をお願いします。(熱中症指数が高い場合は、運動場では遊ばません。)

ネット利用の動向とリスク (研修を受講して)



学校がタブレットを配付して、数年が経ちました。全国的に小・中学生の視力の低下が顕著であるという報道は、あちらこちらで見たり、聞いたりされていると思います。特に、危惧していることは、学校のタブレットでゲームをしている児童を見かけることです。声をかけても熱中しているのでやめることができません。それが依存の第一歩だと感じます。講師の先生も、中学校でのネットトラブルは減少傾向にあるが、増えてきているのが小学生。ポルノ事案も多発していると聞き、驚きました。(大阪府のことです) 大きく影響を及ぼしているのが、TikTok と YouTube だというお話でした。大人が危険だと理解しなければ、この状況は収まらないだろうという見解を示されました。また、ネットトラブルは、警察が介入してくれますが、警察もトラブルは弁護士さんに相談を依頼してほしいと言われるそうです。コロナ禍でネットトラブルが低年齢化し、今や小学校1・2年生の保護者からの相談が多いそうです。気になる点は、以下の点です。

1. ゲームの中で、「うざい。死ぬ。」の言葉が乱発し、その言葉を使うことに抵抗がなくなると、普段に話をしている相手に同じように言うてしまう。その言葉が人を傷つけるとか、過激な言葉だな。とか感じにくくなる。⇒それぞれのアプリに年齢制限があります。何故、年齢制限があるのか考えていただき、お家での約束事を作ってください。
2. ゲームから離れられなくなると、心の病気や不登校につながる恐れがある。(ゲーム依存は、正式にはゲーム行動症という(10歳~14歳で10人に1人の割合))
3. 愛着からゲーム依存になる。
4. LINEでのグループラインのトラブルが増えてきている。LINEアプリも年齢制限を設けられている。
(危険だと思われるアプリはたくさんあり、知らずに使っている現状があるそうです)
5. 睡眠時間の減少…ゲーム障がい(ネット依存)
6. 脳の発達が遅れる。30代でアルツハイマーになる大人が出てきた(脳が大きくなるまで待つ(高校生まで))
7. 新たな法律の策定…撮影罪、グルーミング罪、侮辱罪(小・中学校で補導・施設入所が増えている)



善い行い・放課後の学習支援事業

☆夏休み中に、善い行いがあれば、子どもたちを通してお知らせください。大阪府に報告させていただきます。

☆豊中市の5・6年生を対象にした放課後の学習支援事業にもぜひご登録をお願いします。(プリントは1学期に配付済)

